

被爆三周年。『ピカドン』と戦争の記憶が遠い昔のことになってしまった現在も、広島・長崎の被爆者は、戦争のツメ跡に脅かされ続けている。

現在・広島・長崎を中心全国に散在する被爆者は三五万人とも四〇万人とも言われる。被爆者は、その大半が五〇才以上の高齢者となり、今尚、原爆後遺症に苦しめられている。また、放射能障害の不安は被爆一世・二世にも及んでいる。

援護法制定をサボる政府・自民党

原爆国民会議や各地の被団協を中心に、これまで被爆者援護法制定要求の中央行動が何度も取組まれてきたが、援護法はいまだに実現していない。

六月二十日、参院社会労働委員会において、政府は、

被爆者対策をあくまで現行

原爆二法の枠内で事足りり

とした特別措置改正案を可

決しただけで、またもや被

な呼びを無視して、「一般戦

は、戦争のツメ跡に脅かさ

れ続けている。

被爆者対策をあくまで現行

原爆二法の枠内で事足りり

とした特別措置改正案を可

決しただけで、またもや被

